

米国・カリフォルニア州の中等教育における「衣生活」教育

— 普通教育を中心として —

福田典子 生活科学教育講座

1. 緒言

教育改革の一環である平成 10 年学習指導要領の改訂に伴い、必修の「技術・家庭科」授業時間数の減少や選択の「家庭科」や「総合的な学習の時間」の設置などの影響を受けて、男女共学必修の「技術・家庭科」における指導内容の厳選や基礎・基本の明確化が求められている。衣生活領域のカリキュラム作成においても、到達すべき能力項目の選定および到達レベルの決定や生活における統合化・発展性を視点に入れた内容選択等が課題となっている。

ところで、外国の家庭科教育については、アメリカ合衆国¹⁾⁶⁾⁷⁾¹⁰⁾を中心としてドイツ連邦共和国⁸⁾、イギリス⁹⁾などについて、特定の地域のカリキュラムについて報告されている例が多い。しかしながら、衣生活教育を焦点化し、詳細な分析をされたものは少なく、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州¹¹⁾やカナダ・ブリティッシュコロンビア州⁵⁾の報告がなされているが十分とはいえない。また、現行の実情については不明な点も多い。

そこで本研究では、内容体系が明瞭であり、日本の今後の家庭科教育への示唆が大きいものと期待されるアメリカ合衆国・カリフォルニア州(CA)の中等教育における「衣生活」教育について、目標・構成・履修方法などの特徴を中心に 2001 年版指導者用 CA スタンダード³⁾を主な調査資料として、その他関連資料²⁴⁾とともに分析考察を行った。まず最初に、CA スタンダードのうち、特に職業教育ではなく、普通教育の実態を明らかにし、日本の中学校家庭科における衣生活教育の基礎・基本や指導の方向性を探求するための視点を得ることを目的とした。

2. 方法

2・1 資料収集と選択

2001 年 7 月～8 月アメリカ合衆国西部のカリフォルニア州のロサンゼルス市内において、家庭科教育衣生活領域の指導内容に関する資料収集を行った。主な訪問先は、カリフォルニア州ロサンゼルス地区教育事務所 (Los Angeles County Office of Education, Downey, CA)、ロサンゼルス市立図書館 (Children's Literature, Los Angeles Public Library, Los Angeles)、ロヨラマウント大学附属図書館 (Loyola Marymount University Library, Los Angeles) であった。主な現地での研究協力者はカリフォルニア州ロサンゼルス地区家庭科指導主事 Cheryl Bockhold 氏であった。

主な分析対象資料を、以下のように選定した。カリフォルニア教育省 (California Department of Education, CDE) において多数の教育スタンダードが出版されているが、家庭科に関連の深い内容領域 (部局) として、家庭科・技術科教育 (Home Economics Careers and Technology Education, HECT Ed.) を選定した。そのうち「消費者と家族の教育—家庭科と職業教育」(Consumer and Family Studies-Home Economics Related Occupations, FHA-HERO) という領域が日本における中学校家庭科指導内容との類似性の高いものとして選定した。そこで、多くの資料の中より、家庭科・技術科教育スタンダード (Home Economics Careers and Technology Challenge Standard)

2³⁾中の「消費者と家族の教育」(Consumer and Family Studies, CFS)を主な資料として選定した。さらにその「衣生活(被服)編」(Fashion, Textiles, and Apparel Content Area Standards)を主な分析対象とした。その他関連して、「家庭科と職業教育」(Home Economics Careers & Technology Career Pathway)⁴⁾の1つである「アパレル関係職業教育」(Fashion Design, Manufacturing & Merchandising Career Pathway)を分析の参考にした。

2・2 翻訳および分析作業

まず、入手資料についてそのまま翻訳作業を行った。用語によって適切な日本語に置き返られない場合には、カタカナ書きとした。Identify, describe, evaluate など目的を表す動詞も、日本語に置き換えにくいものが多かった為、文脈により必ずしも統一しないこととした。その後、内容から総合的に判断し、日本の家庭科被服・衣生活領域の指導内容を示す用語をできる限り用いて、その内容を理解し易いように配慮し、修正を行った。さらに、用語によっては、日本における使い方を考慮し、アパレル・リネン・ファスナー・リサイクルなどのカタカナ表現の方がより内容を類推しやすいと考えられる場合には、意識的にわかりやすい用語を用いたり、適宜用語を補って表現した。

3. 結果

3・1 CFS(Consumer and Family Studies)の目標・内容領域・履修方法等の特徴

表1にCFSプログラムの概要を示した。このプログラムは広義には6-12学年用とも示されているが、その主な対象は9-12学年であり、日本の中学生から高校生に相当する生徒向けの家庭科プログラムである。「子供としつけ」「消費者教育」「家族関係と親になるための教育」「被服・繊維製品・服飾」「食物と栄養」「住居と家具」「個人と家族の健康」の7つの内容領域が生活設計スキルとして不可欠な領域として挙げられ、これら全てについて、基礎基本的な内容の学習が必須とされている。これらの学習を通して、人間関係の基礎と生活に密接な事象理解の基礎の2つの力を養うことを目標としている。後者は職業教育の導入とも位置付けられる。人間関係の基礎に関しては、個人生活・家族生活・仕事(職業)の三つの側面で、個々人が自己実現していくための課題解決に役立つものと推察される。生活事象については衣食住と健康・消費者などがキーワードとして挙げられ、具体的な生活に密着した内容の理解とその実践に関する課題解決に役立つものと推察される。

CFSプログラムは7つの内容領域ごとにCコース(Core course content area courses)向きとSコース(Specialized content area courses)向きの内容に編成されている。Cコース向きの内容は、家庭科の各領域の紹介として、さらに各領域の基礎的内容習得として位置付けられる。Cコース向きの内容は「家庭生活(Life management)」という科目名で2年間履修される。「家庭生活」は7つの各領域Cコース向きの内容を全て集めた一般的な内容と推察される。Sコース向きの内容は、10-12学年において、7領域の中から、個人の興味関心の高い領域を1つだけを選択し、より高度な知識・技能・態度を養うことを目的として指導される。そして、以後の職業教育プログラム開始への準備教育としても、位置付けられている。Cコースの内容に相当する「家庭生活」は「家庭生活1」と「家庭生活2」に分かれ、「家庭生活1」については、日本の中学生に相当する学年の9-10学年で少なくとも1年間7つ全ての領域を履修し、その後「家庭生活2」を履修することが決められている。「家庭生活1」と「家庭生活2」の内容区分や「家庭生活2」の配当時間の詳細については、特に決められていないが、「家庭生活2」は「家庭生活1」よりも、より高度な内容を学び、深い知識を身につけることを目標としている。このCコースの「家庭生活1」と「家庭生活2」はその後、発展的に学ぶSコースの内容履修の素地となるべく、2つが相互に密接に関連性を持って

指導するように留意されている。

CFS プログラムは、中学校の家庭科担当者が自身の小カリキュラム作成・指導・評価に関して指針とすることはもちろんであるが、その他中・高一貫した重複のない指導を行うために、高校の家庭科担当教諭が参考にしたり、家庭科指導主事らが新しいカリキュラムを検討する際の資料等に利用されることが推察される。CFS プログラムは、以後の高学年対象教育プログラムの導入および基盤形成として重視されていることが窺える。さらに、その到達目標である個人を取り巻く全ての生活を管理運営する能力については、その関連能力への関係性を職業という観点と並べてその重要な点として強調している。

表1 9-12 学年向き CFS プログラムの概要

概 要	
目的	1.個人・家族・仕事の調和をはかるための生活設計スキルを習得させる。 2.職業教育や高度な専門教育への入門として、各領域の基礎を習得させる。
内容構成	1.子供としつけ Child Development and Guidance 2.消費者教育 Consumer Education (Economics for Living) 3.家族関係と親教育 Family Living and Parenting Education 4.被服・繊維製品・服飾 Fashion, Textiles, and Apparel 5.食物と栄養 Food and Nutrition 6.住居と家具 Housing and Furnishings 7.個人と家族の健康 Individual and Family Health
履修方法	9(10)学年においては、7領域全てを網羅して、各領域の基礎基本を学ばせる。 10(11・12)学年においては、生徒の興味関心の高い1領域を選択させ、より高度な知識・技能・態度を習得させる。

3・2 CFS における被服・衣生活領域の学習

表2に9-12 学年における家庭科衣生活領域の学習のステップを示した。生徒は、まず最初に、6-7 学年「家庭科調べ学習」の中で、8 学年「青少年の生活」への導入的な探求的な観察調査活動をするものと推察される。衣生活関連の内容は、衣食住の内容の1つとして取り扱われる可能性がある。次の9-10 学年「家庭生活」においては、先に述べたように、全ての生徒が7つの領域の1つとして衣生活関連の内容を学習する。次に10-12 学年では、「被服・繊維製品・服飾」を選択科目として、選択した生徒は、「家庭生活」科目の1領域として学んだ内容を基礎として、一層拡大および発展させた内容を学ぶものと推察する。さらに、アパレル関係の職業への就職を目指す生徒は、以後の職業教育（HERO：Home Economics Related Occupations）の科目である「アパレル関係職業教育入門」および「アパレル関係職業教育」を履修し、より発展的で、より高度な実践的な学習を進めるものと推察する。

表3に被服・衣生活（被服・繊維製品・服飾）学習に関する指導内容の構成およびその必修・選択の区別を示した。ここで、必修科目基礎基本と示したのは、先に述べた「家庭生活」における必修の指導内容項目を示す。衣生活関連12項目中9項目が挙げられている。この9項目の内容は「被服着用とその作用」「被服デザインの要素」「色彩理論」「合理的な被服計画」「被服・服飾の歴史」

「繊維製品の流通のしくみ」「布地の手入れ」「被服製作」「アパレルに関する職業」である。すなわち、これらはすべての生徒が共通に必修とされている衣生活の学習内容といえる。中でも、内容的に多くの量を割いて重視されていると予想されるのが、「布地の手入れ」と「被服製作」であった。表 4～14 に衣生活関連 11 項目の内容について、必修の基礎・基本と選択の応用・発展に分類して示した。

表 2. 家庭科衣生活領域の学習ステップ

学年	普通教育 Consumer and Family Studies (CFS)			職業教育 Home Economics Related Occupations (HERO)
	導入的な内容	一般的な内容	専門的な内容	
6	家庭科 調べ学習			
7	Exploratory Home Economics Careers and Technology	親教育 人間関係 Parenting Personal Relationship		
8		青少年の生活 Teen Living		
9		家庭生活 1 Life Management 1 家庭生活 2 Life Management 2		
10			被服・繊維製品 ・服飾 Fashion Textiles And Apparel	アパレル関係 職業教育の入門 Introduction Fashion Careers
11				アパレル関係 職業教育 Careers in Fashion Design, Manufacturing and Merchandising
12				

3・3 手入れ学習と製作学習の内容構成とその特徴

表 11 に手入れに関する指導内容を示した。ここでは、様々な繊維や布地および加工処理方法の違いによる布地の性質の違いについて理解すること。そして、布地の性質に応じた適切な手入れができること。等を目指して、指導および評価される。具体的な指導内容（活動内容）としては、難易度や必要度レベルおよび学習のステップが検討され、1 から 9 番までの内容が、明確に順序良く指導されているものと推察される。必修の基礎基本として最も重要な指導項目として、「1.手入れを意識した被服の購入」「2.天然繊維と化学繊維」「3.織物と編物」「4.しみぬき」の 4 項目が挙げられ、この順序で指導するよう配列されている。

表 3. 被服・繊維製品・服飾に関する指導内容

指 導 内 容	必修的科目 ¹⁾ (core courses) 基礎・基本 9-10 学年	選択的科目 ²⁾ (specialized courses) 応用・発展 10-12 学年
1 被服着用とその作用 Apparel and Behavior	○	○
2 被服デザインの要素 Elements and Principles of Design	○	○
3 色彩理論 Color Theory	○	○
4 合理的な被服計画 Wardrobe Planning and Budgeting	○	○
5 被服・服飾の歴史 History of Fashion	○	○
6 繊維製品の流通のしくみ Apparel Analysis	○	○
7 体の不自由な人のための被服 Apparel for Individuals with Special Needs	×	○
8 布地の手入れ Textils	○	○
9 被服製作 Creating Custom Apparel	○	○
10 衣服のリサイクル Remodeling and Recyclin Clothing	×	○
11 衣服のリフォーム Garment Alteration	×	○
12 アパレルに関する職業 Careers Related to Fashion Design, Manufacturing, and Merchandising	○	○

1) 家庭科全領域を扱う科目「家庭生活1」「家庭生活2」

2) 衣生活領域のみ扱う科目「被服・繊維製品・服飾」

表 12 に被服製作に関する指導内容を示した。ここでは、被服製作（縫製）の基礎を理解すること。を目標として、指導および評価される。具体的な指導内容としては、手入れ学習と同様に難易度や必要度レベルおよび学習のステップより、1 から 10 番までの内容が、明確に順序良く指導されているものと推察される。必修の基礎基本として最も重要な指導項目として、「1.縫製に適した用具・機器の選択」「2.正しい身体計測」「3.被服やクロス類の作品製作」「4.布の縫合・布端の始末・留め具つけ」「5.作品に適した被服材料の選択」の5項目が挙げられ、この順序で指導するよう配列されている。

表 4. 「被服着用とその作用」の指導内容

被服着用の個人や社会への影響に関して	基礎・基本	1. 様々な場における服装ついて、それに適切な場合と不適切な場合の違いを比較する。 2. 被服・繊維製品・服飾などの選択が、社会的・身体的・心理的な満足や快適性にどのような影響を及ぼすかを説明する。
	応用・発展	3. 流行が被服や繊維製品の選択にどのような影響を与えるかを分析する。 4. 被服・繊維製品・服飾を媒体として、どのような文化や理念が表現されているのかを説明する。

表5. 「被服デザインの要素」の指導内容

被服のデザイン に関して	基礎・基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. デザインの要素やその基本原理を理解して、被服に応用する。 2. デザインの要素やその基本原理を理解して、体型に合わせて、被服を選択する。
	応用・発展	<ol style="list-style-type: none"> 3. 全体の印象にアクセサリーの選択と配置がどのように影響を与えるかを説明する。 4. アクセサリーの選択にデザインの要素やその基本原理をどのように生かすかを説明する。 5. 希望するイメージを目指して、被服や服飾を効果的に組み合わせる。 6. デザインの要素やその基本原理を理解して、被服設計や生地デザインの応用する。

表6. 「色彩理論」の指導内容

被服の色 に関して	基礎・基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 色相名や色相配列を知り、様々な色の違いを区別し、その特徴を知る。 2. 色相環や種々の色相配列を作成する。 3. 種々の皮膚色に合わせて、被服の色相を選択する。
	応用・発展	<ol style="list-style-type: none"> 4. 種々の皮膚色に合わせて、被服の明度を選択する。 5. 個性に合わせて、被服やアクセサリーの色を選択する。

表7. 「合理的な被服計画」の指導内容

着用計画 衣料購入計画 被服費の予算化に 関して	基礎・基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 着用場面に合わせて、被服を計画し選択する。 2. 個人の体型・皮膚色・個性に合わせて、被服を計画し選択する。
	応用・発展	<ol style="list-style-type: none"> 3. 被服費・着用頻度・組み合わせ易さ・手入れのし易さなどの観点より、架空の被服購入計画を立てる。 4. 個人のライフスタイルや価値観に基づいて被服を選択・評価する。 5. 個人の所持衣料を把握し、合理的な購入計画を立てる。 6. 家族の成長発達を考慮した被服利用計画を立てる。 7. 1着の被服を着回して、上手に効果的に着用する計画を立てる。 8. 合理的な購入により、被服費を効果的に運用する。 9. 中古衣料や中古寝具などの合理的な利用により、被服費を効果的に運用する。 10. 被服の保管に必要なスペースについて検討する。 11. 個人や家族の被服費を適切に計画する。

表 8. 「被服・服飾の歴史」の指導内容

歴史等 に関して	基礎・基本	1. 現代の被服や流行に及ぼす過去の衣服の影響を調べる。
	応用・発展	2. 現代被服の文化的・歴史的な発展の経緯を分析する。 3. 被服や服飾意匠に対する特定の文化的背景を分析する。 4. 特定の文化や一定の時代の影響を受ける外衣や布地をデザインする。 5. 技術革新によってもたらされた被服史や服飾史上の節目を説明する。

表 9. 「繊維製品の流通のしくみ」の指導内容

商品（繊維製品）としての被服に関して	基礎・基本	1. 既製品とオーダーメイドの服について、その品質の違いを比較評価する。 2. 種々の異なる小売店で販売されている類似の外衣について、その価格や品質の違いを比較する。
	応用・発展	3. 被服や生地類について、手作りの物と既製品を比較し、入手に必要な時間・労力・費用の観点より評価する。 4. テレビやコンピュータなどの様々なメディアからの繊維製品に関する商品情報をまとめて集約する。 5. 異なるアパレルメーカーのアフターサービスの違いを比較する。

表 10. 「体の不自由な人のための被服」の指導内容

特別な配慮が必要な人の被服に関して	基礎・基本	
	応用・発展	1. 特別な被服・リネン・生地類について、その入手先や入手方法について知る。 2. 特別な被服・リネン・生地類を取り扱う公的・私的な団体からの情報を分析する。 3. 特別な配慮が必要な人に対して、その個々の必要性に合わせて、糸や布の製作方法の違いを知り、適切に選定する。 4. 特別な配慮が必要な人の為に、その個々の必要性に合わせて、一般的な外衣を作り変えたり、デザインする。 5. 特別な配慮が必要な人の為に、その個々の必要性に合わせて、被服を引き立てるための様々な留め具やアクセサリ小物の特徴を知る。

表 11. 「布地の手入れ」の指導内容

布地の性質や手入れに関して	基礎・基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手入れのし易さを考慮した布地の選択について述べる。 2. 天然繊維と化学繊維の違いを見分ける（区別する）。 3. 紡織物・非紡織物・編物の構造上（製造上）の違いを述べる。 4. 適切な処理剤と処理方法を選んで、被服類や布類に付着したしみを除去できる。
	応用・発展	<ol style="list-style-type: none"> 5. 繊維や布地の化学的・物理的な特性（性質）について、実験する。 6. 購入時（の意志決定に関して）、「布地の性質」や「繊維製品流通調整」に関する知識を生かす。 7. 着用目的や用途に合わせて、適切な「繊維組成」や「加工処理」のなされている布地を選択する。 8. 被服や繊維製品の手入れ方法は、家庭生活における省資源・省エネルギーに影響を与えることを述べる。 9. 被服や繊維製品の手入れに関する種々の方法や処理剤について、その違いを知り、適切に選択できる。

表 12. 「被服製作」の指導内容

被服製作に関して	基礎・基本	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被服の補繕や製作について、適切な材料・用具・機器を選ぶ。 2. 身体を正しく計測する。 3. 縫製技能と適切な機器を用いて、被服類や寝具・インテリア類を作る。 4. 縫合・かがり縫い・ファスナーつけ・スナップつけなどの実習を通して、基本的縫製技能を評価する。 5. 製作する服種に応じて、適切な生地を選択する。
	応用・発展	<ol style="list-style-type: none"> 6. 一般生地を用いて、型紙補正やデザインの一部変更等の実習を通して、より高度な製作技能を向上させる。 7. 製作作品の選定・縫製計画・デザインの過程において、コンピューターを利用する。 8. 家庭用・工業用の機器購入時、考慮すべき視点を評価する。 9. 手作り衣料か既製服のどちらかについて、その適切な加工処理の適性（処理効果）を分析（評価）する。 10. 被服のリフォームや再織などのより高度な縫製・製織技能を用いる。

表 13. 「衣服のリサイクル」の指導内容

被服のリモデルリサイクルに関して	基礎・基本	
	応用・発展	<ol style="list-style-type: none"> 1. リモデル・リサイクル衣料の価格の違いを評価する。 2. リモデル・リサイクル衣料のうち、現代の被服として十分に取り入れられるものを見極める。 3. 古い衣料・寝具・インテリア繊維製品を修繕やリサイクルする方法を適切に選定する。

表 14. 「衣服のリフォーム」の指導内容

被服のリモデルリサイクルに関して	基礎・基本	
	応用・発展	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外衣のリモデル・リサイクル専門店の価格の違いを比較し、評価する。 2. パーツ交換の必然性や適切性を評価する。 3. リフォームの必要性を述べる。 4. 要求される機能を低下させた利用を実施する。 5. 取り替えたパーツの被服全体からみた適合性を評価する。

4. 考察

4・1 被服・衣生活教育

CA州におけるCFSでは、生活に必須の内容として職業教育の前段階として、日本の家庭科と類似の指導を行っていることから、日本においても、これらの内容は中学生段階において、必修的な扱いで、男女とも一定水準の内容を指導されなければならないことが確認された。衣生活の内容に関しても、生活に密接した必要欠くべからざる領域として、生活に関する事象理解のための指導内容において、重要な位置付けがなされていることが明らかとなった。日本においても、今後も食生活および住生活と並ぶ重要な内容として、男女ともに一定水準の指導が必要であろう。

CFSにおける衣生活の指導内容を、日本で現在行われている家庭科衣生活領域の指導内容と比較すると、CFSでは、日本で小学校から引き続き重視している保健衛生的な着用指導という視点は少なく、色・デザインなどの原理を生かした審美的な着用指導を重視している点が最も異なる。また、繊維製品の商品としての特性理解を促し、賢明な消費者として必要な指導を重視している点が特徴的である。日本では、「A生活の自立と衣食住」の内容の1つとして「衣服の選択と手入れ」が挙げられ、既製服の表示や縫製の品質を見極めた選択に関わる具体的な題材はしばしば取り上げられる。しかしながら、手作りの服と既製服の相違点やアパレル関連メディア情報や商品購入後のサービスなども扱う例は少ない。さらに、今日的な課題である繊維製品の資源としての有効利用に関する指導に関しても、日本で扱われている内容よりも詳細に具体的な指導がなされていることが推察される。

CFSにおいて必修であり基礎・基本として扱われる内容には、手入れおよび製作学習が多く見られる。このことから、日本の衣生活教育の指導においても、今後基礎基本の核となる内容は「手入れ学習」ではないかと考える。製作学習に関しては、社会的な背景や職業教育とも関わって、日本の衣生活教育上どのような位置付けが望ましいのかについて、一層多方面より十分な検討が必要であろう。

4・2 手入れ学習および製作学習

CFSにおける手入れ学習では、手入れを目的とした被服材料に関する内容が大変に多く、適切な手入れを行う為被服材料に関する深い理解が重視されていることが明らかとなった。日本においては、被服材料に応じた処理方法の選択という視点よりも、洗濯条件として、洗剤・洗濯・脱水・乾燥方法などが羅列的に扱われる指導例が多く見られる。日本においても、今後は被服材料学習を明確に手入れ学習理解のための必須的内容と位置付ける方向も示唆された。

手入れ学習のステップとしては、①手入れの重要性②繊維および布構造の違い③しみぬき処理基礎（技術）④布地の化学的・物理的性質の違い（実験）⑤布地の性質や加工処理・流通の特性を考慮した既製服の選択⑥省資源・省エネルギーに配慮した処理方法の選択⑦被服整理用剤の適切な選択であった。そのうち①～③が中学生段階において必修とされている内容であることが明らかとなった。日本においても、手入れの意義を理解させ、上手な手入れに必要な最低限の繊維や布の性質を理解させ、最後に具体的なしみぬき実習を行いながらまとめるというステップは比較的短時間に指導が可能であり、実現性が高いように思われる。

製作学習のステップとしては、①用具の種類②採寸③製作実習基礎（技術）④作品に適する布地の選択⑤製作実習応用（技術）⑥機器購入⑦加工処理⑧リフォーム等であった。そのうち①～④が中学生段階において必修とされている内容であることが明らかとなった。日本においても、縫製に必要な基本的な用具の種類や安全な扱い方を理解させ、上手な縫製活動に必要な最低限の知識および技能を身につけさせ、布地の選択を考えさせるというステップは生活者として必須の指導内容を

理解させる為にスムーズであり、学習者に対して汎用性や発展性の高い知識や技能の定着が期待できる。特に製作経験を踏まえて、作品に適した布地の選択を扱う点が大変に興味深い。日本においても、最低限の布加工（構成）に必要な技能および被服の補繕に必要な部分縫いの実習を行い、実習後、被服製作計画を立てさせ、実習を模擬体験できるような展開も生徒の興味・関心の高揚が期待される授業として可能であろう。この場合、どの水準の実習を行うかについて、発達段階や生徒の技能水準を見極めた検討が必要である。

以上の分析考察から、わが国の衣生活に関する内容は、今後とも男女とも必須に学ぶ必要があり、内容としては、手入れと製作に関する知識や技能が特に重要であり、衣生活領域の基礎・基本として位置付け、入門段階で取り扱う必要があること。被服材料学習は、手入れ学習とのつながりを鮮明に扱うことを検討すること。被服製作学習は、基本的縫製技能の習得をその目標とする必要があることなどの視点を得た。

5. 結論

本研究では、アメリカ合衆国・カリフォルニア州の中等教育における「衣生活」教育について、目標・構成・履修方法などの特徴を、2001年版指導者用CAスタンダードを中心に関連資料を用いて分析した。その結果、以下の知見を得た。さらに、それらの分析を通して、日本の中学校家庭科における衣生活教育の基礎・基本や指導の方向性に関する幾つかの視点について考察した。

- 1) CA州家庭科カリキュラムにおいて、衣生活教育は職業教育と密接に関わっているが、普通教育の重要な一領域として、重視されていることが窺えた。
- 2) 衣生活領域において、「被服着用とその作用」「被服デザインの要素」「色彩理論」「合理的な被服計画」「被服・服飾の歴史」「繊維製品の流通のしくみ」「布地の手入れ」「被服製作」「アパレルに関する職業」が必修の内容項目として、重視されていることが窺えた。
- 3) 衣生活領域のすべて指導項目について、必修での履修と選択での履修内容が明確に区分され、項目内のそれぞれの指導内容は、難易度や必要性に応じて段階的に順序良く指導されていることが窺えた。
- 4) 衣生活領域の指導項目のうち、「布地の手入れ」および「被服製作」は、必修での内容項目が比較的多い指導内容であり、衣生活教育において、特に重視されている傾向が窺えた。

謝辞

本研究を行うにあたり、ご助言ご協力をいただきましたカリフォルニア州ロサンゼルス地区家庭科指導主事 Cheryl Bockhold 氏、ロヨラマウント大学附属図書館参考調査係司書 Elisa Slater 氏、Sachi Yagyū 氏、Michael Carty 氏に感謝の意を表します。

引用・参考文献

- 1) 荒井紀子「米国家庭科カリキュラムにみる家族・保育学習（第一報）—オハイオ州83年版〈PRACTICAL ACTION〉の理念と構造をめぐって—」日本教科教育学会誌,第15巻,第1号 p.23, (1991年)
- 2) California Department of Education, Sacramento, *Challenge Standards for Student Success: Home Economics Careers and Technology- Grades 9-12-*, pp. 6~9, (2001)
- 3) California Department of Education Sacramento, Op.cit.2) ,pp.26~31, (2001)

- 4) California Department of Education Sacramento, *Home Economics Careers and Technology Career Pathway for the 21ST Century*, pp.43~57, (2001) (in press)
- 5) 福田典子「カナダ・ブリテッシュコロンビア州の中等教育における衣生活教育」琉球大学教育学部紀要, 第52巻, p.169 (1998年)
- 6) 林未和子, 福田公子「ブラウン理論に基づく米国家庭科カリキュラムの解析—家族に焦点を合わせたウイスコンシン州の事例—」日本家庭科教育学会誌, 第41巻, 第3号 p.1, (1998年)
- 7) 牧野カツコ「アメリカ合衆国における家庭科教育の現状—中西部の公立高校の事例を中心に—」お茶の水女子大学人文科学紀要, 第42巻, p.133, (1989年)
- 8) 中川眸, 長田聡美「ドイツ連邦共和国(西ドイツ)の初等・中等教育段階における家政教育(第1報) —基礎学校における家政教育実態—」日本家庭科教育学会誌, 第26巻, 第2号 p.84 (1983年)
- 9) 日本家庭科教育学会 欧米カリキュラム研究会「イギリス・アメリカ・カナダの家庭科カリキュラム」, p.1, (2000年)
- 10) 澤井セイ子「アメリカ合衆国ミズリー州の家庭科教育カリキュラムに関する一考察」秋田大学教育学部研究紀要 教育科学部門, 第45巻, p.127 (1993年)
- 11) 鋤柄佐千子「オーストラリア・ニューサウスウェールズ州の中等教育における衣生活教育」日本家庭科教育学会誌, 第32巻, 第1号 p.15, (1989年)

**A Study of Fashion Area of Consumer and Family Studies Curriculum
of California, USA
- On the Field of General Education -**

Noriko FUKUDA
Department of Living Science

The purpose of this study is to make an attempt to clarify the goals and contents of fashion area of Consumer and Family Studies curriculum in secondary education of California in the United States. The information on general education was investigated through the *Home Economics Careers and Technology – Grades 9-12 -* (2001).

The following results were obtained.

1. Fashion area in Consumer and Family Studies valued as one of the general education with relation to vocational education.
2. Apparel and Behavior; Elements and Principles of Design; Color Theory; Wardrobe Planning and Budgeting; History of Fashion; Apparel Analysis; Textiles, Creating Custom Apparel; and Careers related to fashion Design, Manufacturing and Merchandising were taught as compulsory contents of fashion area.
3. The standards on each field of fashion area were classified into compulsory and elective, and organized with the base on the difficulty and necessity degree for student.

(2001年9月25日 受理)